

厚生労働大臣賞（優秀賞）

水道水が手元に届くまで

僕は、水が大好きです。喉がかわいた時は、さっとコップを手にとり、水道水を口にします。蛇口をひねれば水が出る。そんな当たり前に思える生活を送っていました。

ある日、その水について疑問がうかびました。
「この水、どこからどうやってきているのだろうか？」

と思った僕は、自分の地域に水が届くまでを調べ、施設の見学をしに岐阜県八百津町の丸山ダムと愛知県犬山浄水場を訪れました。

丸山ダムは、直接愛知用水とは関わりを持ちませんが、木曽川の下流域を守る大事な役割を担っています。まず僕は、管理所の方に連れられ、慰霊碑を訪れました。百メートル級であるダム建設に、犠牲者が出ていたようです。安心して人々が生活できる様に、安心して僕達の手元に水が届く様にするために、大切な命を落としている人がいることを知り、胸が痛くなりました。僕は、慰霊碑に手を合わせました。

又、丸山ダムや下流域に建築が計画されている新丸山ダムの建築により、やむを得ず、立ち退きをしなければいけない人達がいることも知りました。多くの人々の生活のために、故郷を離れた人達の思いを考えると、複雑な胸中でした。僕のおじいちゃんも、八百津の山を、ダム建築のために売っていました。

「山を売ってしまったのはもったいなかったな」と話していました。

そんな人達の思いを一切無駄にはせず、日々ダムは、多くの人々のためにフル稼働しています。見学時も、ゲートが一門放流され、管理所では様々な機械で、様々な事を加味しながら、操作が行われていました。

そして、たくさんの方の思いが詰まった水は、木曽川を下り、同町の兼山取水口により愛知用水へと入ってきます。水道水として生まれ変わるため、浄水場できれいな水にします。今回は、犬山浄水場を見学させ

愛知県 扶桑町立扶桑中学校 一年 真野 聡真

ていただきました。場内には、巨大な沈でん池やろ過池、浄水池などとにかくでっかい設備がたくさんあります。それもそのはず、一日で約三十四万四千三百立方メートルの水を給水できるのです。管理所では、場内の様子を一目で見ることができるようです。無数の機械であらゆる設備を操っています。

そんな浄水場では水質管理を欠かしていません。設備ごとに細かくチェックをしています。検査員の方々が、美味しく安全な水を届けるべく、日々たくさんの方々のために丁寧に管理をしています。しっかりと薬品で消毒をした水は、市町の配水池へと送られ、そこから各家庭へ供給されます。

日本の様に水道水を安心して飲める国は世界でもごくわずかです。実際に海外に行くと、飲食店に入っても、水が出てくるなんてまずありません。日本では当たり前でも、他の国にとってはもったいの話です。時々、水道水を飲むことに抵抗を覚える人を目にします。日本の水道水は世界一美味しい水道水と言っても、決して過言ではありません。ですが、その水が蛇口をひねって出てくるには、たくさんの方々の努力があったり、人生を変えた人もいるということを、決して忘れてはいけません。上流から下流。浄水場から手元へ届くまで、両手両足の指があっても足りない位の方々の思いが乗せられています。水道水が美味しい秘密は、これなのではないかと僕は思います。又、日常生活でもこれを心の片隅に残しておくだけで、水への印象が変わり、節水などへ繋がるのではないのでしょうか。水も限りある資源です。一人一人が水に対する意識を変え、誰もが暮らしやすい社会を作っていきたいと思いました。